H1,325×W4,224mm／看板

作者：安藤広重

歴史が息づくまち　枚方宿

徳川幕府は、17世紀初頭から全国的に街道整備・宿駅設置を進め、東海道の延長として伏見・淀・枚方・守口の4宿を設けました。

枚方宿は、東見附から西見附まで797間(約1.5km)、問屋場・本陣のほか旅籠や商家など多くの町家が軒を連ねて宿場町としての賑わいを見せました。

紀伊徳川家は、藩主吉宗が八代将軍に就いた後、六代藩主宗直の寛保元年(1741) の参勤交代から、大坂・京に将軍家の権威を示すために京海道を通ることが多くなり、参府・帰国とも枚方宿に宿泊することを常としました。

また、枚方は淀川水運の中継港で米や河内木綿、菜種など物資の集散地であったため、在郷町としても繁栄し人と物が行き交う水陸交通の要衝として重要な役割を果たしました。

English guide
한국어 안내
中文 指南

⑬問屋場
Toiyaba [administrative office for freight forwarders]

問屋場は、人馬の継立、公用旅行者の宿の手配など、宿駅の事務一切を取扱い、民間の輸送にも関係した。問屋役人(宿役人)が常駐していた。

⑭過書船船番所 伏見船船番所
Ship Guard Station for Kasho-bune Ships

淀川を上下する船の監視施設。船切手(許可書)の交付、積荷と船切手の照会、上米(税金)の取立などを行った。

⑮京新
Kyoshin

江戸時代の旅籠組合の一つ「浪速講」の指定宿。良心的で安全な旅籠の定評があった。

⑯鍵屋
Kagiya [Historic boat inn]

「鍵屋」は、16世紀後半に創業されたと伝えられる枚方宿の代表的な船宿だった。

⑩高札場
Kosatsuba [bulletin board station]

民衆に法令を周知させるために、繁華な市場や交通の要所に高く掲示する高札を掲げる施設。

「近江名所図会」「石場」の高札場
豊川書店刊「近江名所図会」を転載

⑪本陣
Honjin [Accommodations]

勅使・大名・公家などの貴人が休泊する民間施設。枚方宿本陣は池尻善兵衛家が世襲した。一般の旅籠と異なり、門・玄関・上段の間が設けられていた。

「東海道五十三次(往歩入東海道) 蒲」広重画
横浜市歴史博物館蔵

⑫浜間屋
Hamamaya

村々からの浜出し荷物を預かり船積みしたり、陸揚げした荷物を保管していた。

東海道（京街道）枚方宿の概要

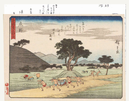
Guide Map of Hirakata-shuku [Post Town], Tokaido Road

⑥紀州七里飛脚
Kishu Shichiri-bikyaku [mail delivery service station]

紀州藩は、独自の通信機関として、江戸・和歌山間に七里飛脚を設置しており、枚方宿は岡村に七里役所がありました。文化・文政期には、大坂天神橋屋敷に詰めており、紀州藩の大名行列が予告されると、御通行1月前くらいから枚方宿に滞在して、通行の準備から残務処理までを行った。

❶一里塚
Ichirizuka [milestone]

街道の両側に一里ごとに設けられた塚。榎や松を植栽し、旅人が距離を測る目安となった。



「東海道五十三次(往歩入東海道) 庄野」広重画
横浜市歴史博物館蔵

⑦宗左の辻
Soza-no-tsuji [Crossroads]

精油業を営む角野宗左家横にあったことから名付けられた。東海道（京街道）と磐船街道の分岐点である。

❷天野川橋
Amanogawa Bridge

俗に「銭取橋」と言われていた。紀州藩は別に専用の橋を架けていた。

⑧岡村共同井戸
Okamura Community Well

岡村の井戸水はカナケがひどかったため、良質な水の湧く井戸から、上・中・下の井戸に水を引いた。

③茶屋
Chaya [Teahouse]

私用旅行者の休泊所。

⑨常夜燈
Night-light

妙見宮の常夜燈。岡村と三矢村の村境に建つ。

④町飛脚
Machi-bikyaku [local mail delivery service station]

一般庶民や商人が使用する。枚方宿では、文政期に「酢屋」は勤めた。

⑤郷蔵
Gogura [warehouse]

年貢米や凶作時のため米を保管する倉庫。各村に1棟ずつあった。